

Mistral Large 4が示す「日本のAI主権」再設計への道

規模競争からの脱却と、スマートな適応戦略

国産1兆パラメータ？

ただ大きいだけ

コスト高

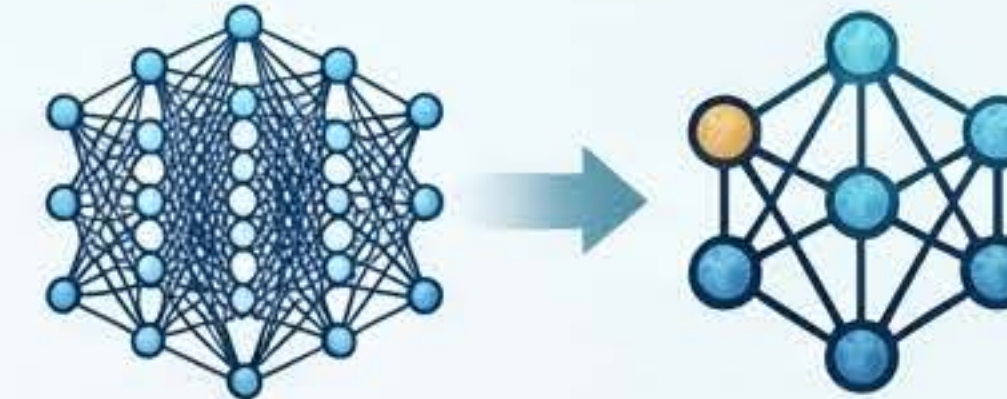
NEW PARADIGM:
スマートな主権
(Smart Sovereignty)

OLD PARADIGM:
規模競争
(Scale Race)

技術・戦略の意識改革（規模競争からの脱却）



パラメータ規模から「疎な
スケーリング」への転換



総容量1.05兆に対し活性化は490億に抑え、
推論効率と100万トークンの長文処理を両立



AI主権の本質は「国産100%」
ではなく「退出可能性」



特定APIへの依存を避け、米・欧・中・国産モデル
を自由に比較・切り替えられる能力が不可欠

主要モデル比較と日本の戦略的意義



Mistral Large 4

1.05T total / 49B active
(granular MoE)

欧州型の独自計算基盤・Open
Weightによる「主権型モデル」
の成果



DeepSeek V4 Pro

1.6T total / 49B active
(MoE + Long-context)

計算資源の少なさをアルゴリ
ズム効率化 (Attention/KV
Cache削減) で補う横範



GPT-6 Astra

Closed Service
(Details Undisclosed)

最高峰の性能と安全性統制を
持つが、ベンダ依存・重み入
手不可のリスク

産業実装と政策の再設計（実務への定着）



要約・翻訳などの個人補助にとどまらず、
設計・保全・調達など一連の工程を担う
AI設計へ移行



「テキスト生成」から
「業務完遂 (Agentic
Workflow)」へ



日本独自の評価基盤
(JAI-Trust) と
データ統制

海外ベンチマーク依存を脱し、
日本語・文化・法制度に沿った
独立評価とデータ来歴管理を推進